

## 第三者評価結果の公表事項

### ①第三者評価機関名

一般社団法人 宮崎県社会福祉士会

### ②評価調査者研修修了番号

2019-1、2016-18

### ③施設の情報

名称：愛生園	種別：障害者支援施設（生活介護／施設入所）	
代表者氏名：池田 廉太郎	定員（利用人数） 60名	
所在地：宮崎県児湯郡木城町大字椎木字浦畑3950-1		
TEL：0983-32-2829	ホームページ： <a href="http://www.hp.fukushi-zenjinkai.jp/">http://www.hp.fukushi-zenjinkai.jp/</a>	
【施設の概要】		
開設年月日：昭和56年6月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 善仁会		
職員数	常勤職員： 44名	非常勤職員： 8名
資格 職員数	社会福祉士： 1名	
	介護福祉士： 17名	
	介護支援専門員： 1名	
	看護師： 1名	
	准看護師： 4名	
施設・設備 の概要	理学療法士： 1名	
	（居室数） 65 室	（設備等） 個室（空調設備、ベッド、簡易収納設備、洗面設備）

### ④理念・基本方針

#### 法人基本理念

「皆様（利用者）のために社会福祉法人は存在する。」

地域における福祉推進の拠点としての役割を果たすとともに、法人の総合力を発揮して福祉の増進に努めます。

#### 法人基本方針

- （1）安定した経営を図り、社会貢献に努めます。
- （2）利用者の健康と安全を守り、利用者本位のサービスに努めます。
- （3）利用者の人権と人格を尊重します。

### ⑤施設の特徴的な取組

木城町内の中心地に位置した事業所として平成24年7月に地域密着型特別養護老人ホームを併設し新築移転した事業所です。事業所の特徴として個人のプライバシーに配慮するため全室個室となり、個別ケアの充実を目指しております。また、福祉サービスの標準化、質の向上を図るため各種マニュアルの策定や第三者評価（外部評価）を積極的に受審しております。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年10月15日（契約日）～令和3年3月31日 令和3年2月12日（評価結果確定日）
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

### ⑦総評

#### ◇特に評価の高い点

・法人の理念・基本方針が明文化され職員全体に周知されています。利用者稼働率なども見ていながら安定した財源の確保に努めています。それらの方針を基に事業計画等が作成されています。経営状況、事業の進捗状況については法人の経営会議において経営状況の把握・分析の結果必要な対策が取られています。

・労務管理をはじめ人事管理、経理管理等総合的に行われ透明性の高い経営が行われています。年2回の内部監査の実施等によりチェック体制が確立しています。

・法人として人事考課制度が導入され、研修体制が確立し、職員の資質の向上に取り組んでいます。新任職員に対してはエルダー制度の活用がされ、福祉職員としての基本を学ぶ仕組みが作られています。研修も内部研修、外部研修の派遣など職員の専門性、資質の向上に取り組んでいます。特に部内研修では研修後に簡単なテストが実施されるなど、身につく研修の工夫がされています。

・働き甲斐ある職場環境づくりとして、勤怠管理システムを導入し、勤務状況の確認を行い業務改善に取り組んでいます。有給休暇取得状況などを見据え職員が休暇を取りやすい職場環境づくりに努めています。また職員のメンタルヘルス面での対応として専用の窓口を専門家に委託しており気兼ねなく相談できる体制がとられています。資格取得の支援に関しても積極的に取り組まれています。

・地域貢献活動として、「みやざき安心セーフティーネット事業」に参加し生活困窮者への相談支援を行っています。木城町社会福祉協議会と連携し地域のサロン活動に参加するなど施設の持つ専門性を提供しています。

また、地域生活支援事業として支援学校に通っている小学生を放課後に、日中支援を行うなど地域に向けた取り組みがされています。

複合施設として西都児湯地区の人口減少地域の福祉の拠点作りとして東米良地区の高齢者支援子育て支援などの活動の実施に向けた取り組みがされています。

・福祉現場におけるICT（情報通信技術）の導入、活用について検討されていますが、

業務の効率化とサービスの向上という観点からは特に必要なことだと考えます。導入に当たっては全職員で研究して業務の効率化をどう図るかを検討されることが望まれます。

・各種マニュアルが整備されており、有効期限を1年とし、必要時や定期的に見直しがかけてられています。各種会議や委員会も機能しており、組織的に利用者のサービスの向上に取り組まれています。今後も利用者・職員等の意見を十分取り入れた各種マニュアルの作成に努められることを望みます。

#### ◇改善を求められる点

・実習生の受け入れが少ない状況にあります。施設の立地条件（交通の便が悪いこと）や近年各学校の介護を学ぶ学生の減少などにより希望する学生がいないことなどがその原因であると思いますが、施設紹介のVTRなどを各学校に配るなど、考えられるアイデアを職員で出して積極的なPR活動に取り組み人材育成に努めることを期待します。

・リスクマネジメントについては、事故防止マニュアルが整備されており、事故対策委員会の定期的な開催により職員一同で事故防止に努められていますが、ヒヤリハット報告が少ないようです。そのためにはハインリッヒの法則を学ぶ機会を作り、事故を未然に防ぐためには、ヒヤリハット報告の重要性を全員が認識することが必要です。またヒヤリハット報告と事故報告についてはなかなかすみわけが難しい部分もありますが、分けて記録することが望ましいと思います。ヒヤリハット報告が多く提出され、それらの検証を重ねることにより事故の軽減に繋がることを期待します。

・今回の「利用者家族等アンケート」の結果より、大多数で高評価でしたが、少数意見として職員の接遇・マナーについて記載がありました。マニュアル等を完備し、職員研修等も適宜実施されていますが、良質な福祉サービスを提供し、顧客満足度を高めるためには、職員一人ひとりが意識をもって取り組むことが重要です。利用者に配慮した接遇・マナーの更なる向上をめざし、全職員に浸透するような取り組みを期待します。

・「社会参加、学習支援」、「地域生活への移行と地域生活の支援」の項目について意図的な取り組みが消極的に感じました。地域の情報を収集したり、地域の行事に参加したりという実態はあります。それに対して、支援はされていますが、利用者の意向と能力に応じた効果的な学習をする機会や環境の整備が手薄になっています。また、退所者は医療機関が多く、地域生活への移行を希望する利用者や家族等が少ないという現状を伺いました。そのため、地域生活へ移行するという意欲を高める情報や学習・体験の支援がなかなかできていないようです。いろいろな事情で施設サービスを利用されていますが、地域の社会資源やネットワークを利用し、地域で生活するという選択肢もあるということを利用者に伝える努力も必要ではないかと考えられます。実施していくに当たっては、地域の実情や環境整備のための費用面等で課題は考えられますが、今後の取り組みに期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

コロナ禍により御利用者との対面での聞き取りや施設での暮らしぶりを時間をかけて見ていただくことが叶わない中での評価となり、評価者のご苦勞に敬意を表するところです。評価いただいた点については慢心することなく今後も丁寧な取り組みを継続したいと考えています。

改善を求められる点については、当施設の置かれている状況を鑑みての評価であり、真摯に対応することとしております。とりわけ、社会参加については、中長期的視点をもって包括的に進める部分と直接的な個別支援を織り交ぜて取り組んでいきたいと思っております。

丁寧に評価していただきありがとうございました。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。